

平成27年 7月 22日

独立行政法人国際交流基金 契約監視委員会（平成26年度第3回）

議 事 要 旨

1. 日時：平成27年3月20日（金）14：00-16：30
2. 場所：独立行政法人国際交流基金第2セミナー室（9階）
3. 出席者：
 - （1）委員
渡邊一弘委員長、舟田正之委員、宮本和之委員、渡辺政宏委員
 - （2）国際交流基金
安藤理事長、田口理事、沖部上級審議役、小野総務部長、古屋経理部長、清水監査室長、平林会計課長、審議案件担当者
4. 主要議事：
 - （1）平成26年度再委託案件・一者応札・応募案件について（報告）
 - （2）個別案件の審議（平成26年度11月～平成27年3月締結分・審議）
 - （3）その他
5. 主要議事概要：
 - （1）平成26年度再委託案件・一者応札・応募案件について（報告）

今回委員会の点検対象となる契約のうち、再委託案件及び一者応札・応募案件について事務局より報告。

委員：再委託案件のうち「仮想化基盤保守業務委託契約」について、新たに調達する可能性はあるのか。運用設計した業者が一旦受注すると、その後の保守等業務についても同一業者が受注するという話を聞くが、基金もそのような事態に陥ってはいないか。

基金：本件に関しては、再委託に関するご質問ではなく、「運用設計、保守を別々に調達したのではないか」という前提に立ってのご質問と理解する。本件は、「仮想化基盤運用設計・保守業務委託」一式をまとめて入札に付しており、契約を「運用設計」、「保守」に分けて締結したもの。したがって、本件に関してはご指摘の事案には該当しないが、ご指摘のように最初にそこに決まると後から続いてしまう性質のものについては今後も注意を払っていく。
 - （2）個別案件の審議（案件一覧は別紙の通り）
 - ア 「情報セキュリティーポリシー改定に係る支援業務委託契約」

基金：工数、経費等について複数の専門コンサルタントにヒアリングを行った

うえで予定価格を設定したが、結果は落札率が低くなった。その原因を確認したところ、他の独立行政法人等からの受注実績を元に「横展開」が可能と企業が判断し、コストが抑制されたとのことだった。

委員：政府統一基準群の改定を踏まえ、一斉に省庁、独法等によるセキュリティポリシー改定の発注が始まったのではないかと思う。基金が後発のメリットを享受できたというのは不思議だが。

基金：基金は他法人等に比較して発注時期が遅めだった。

委員：市場価格が下がっていることに気付かぬまま高めの予定価格を設定したが、一般競争入札を行ったことで、問題は解消されたということ。価格ダンピングにより今回受注すれば、今後も同種の業務を継続的に受注できるということにはならないか。

基金：今後のポリシー改定等の調達においては、一般競争入札を含めた適切な方法をその都度選択していく。

イ 「平成26年度高校生「ふれあいの場」訪問事業にかかる旅行手配業務委託契約」

基金：昨年度の同一事業において一般競争入札による調達を行った際、公示、入札から旅行開始までの期間が短いとの意見が受託業者から出たことを踏まえ、今年度は改善したスケジュールで作業を進めていたにも関わらず、日本の高校生の訪問先である中国側受入校の受入許可が下りる時期が遅れ、仕様を固めて入札公示できたのが年末、入札説明会を年明け早々に実施せざるを得なかったことが一者応札の結果に繋がった。

委員：止むを得ない事情と理解したが、改善策は無いのか。

基金：中国側の受入先との合意を早く取り付けるにことに尽きるので、交渉開始時期を早めることを考えている。

ウ 「「KAKEHASHIプロジェクト」クリエイター交流（短期招へい/アート分野、アニメ分野）に係る国際航空券手配及び国内接遇業務委託契約」

基金：本プロジェクトは過去2カ年の参加者が約4,600名の大規模なもので、一般競争入札の回数は30回、そのうち一者応札となったのは1件だった（本件契約については2社応札）。個々の調達の時期、内容に応じて、業者がその時々々の営業・繁忙状況を睨みつつ応札の是非を決めているものと理解している。

委員：了解した。落札率が低めとなった理由は何か。

基金：前回委員会でも類似案件の審査で説明申し上げたように、国際航空券価格の流動的变化を予定価格に反映するのが難しい事情がある。

エ 「国際交流基金ライブラリーの図書館システム用ハードウェア等賃貸借並びに保守・運用支援契約」

基金：落札者決定から納期までの履行期間が短かったことが一者応札の理由ではないかと推察。落札率が高いという結果については、専門コンサルタントを入れて精緻に積み上げた予定価格が落札者の積算結果に非常に近かったことと、一社による複数回入札でようやく落札したことが原因。

委員：15年くらい前、主に地方自治体の図書館情報システム（ソフトウェア）の調達で、ある落札者が他の調達案件で破格の安価で応札するダンピング入札の問題が発生したと記憶。本件調達におけるハードウェア部分は、市場価格が比較的容易に判明するので、予定価格の精緻な積み上げは可能だろう。保守・運用支援について落札価格ではどうなっているか。

基金：保守・運用支援は予定価格の4割を占めている。

委員：今回はハードウェアの賃貸借とその保守等にかかる調達だが、システム全体を見れば、ソフトウェア、ハードウェア、保守と一つの纏まりを成している。一括調達するのが効率的なのか、分割調達したほうが良いのかは場合によるが、先行するソフトウェア調達に関する情報が判断材料になるので、次回、同様例ではその情報も一覧できるように願いたい。

基金：了解した。

オ 「「山下洋輔 with LOTUS POSITION チェコ、スロバキア公演」公演団契約」

基金：交流年事業の一環として現地受け入れの各日本大使館及び共催機関である各会場と具体的なアーティストを含めた内容に関する協議を経て実施を決定。

委員：アーティストの知名度を勘案すれば出演料は破格ではないか。

基金：然り。有難いことである。

カ 「Asian Youth Jazz Orchestra公演に係る業務委託契約」

基金：単純に公演団を海外派遣するのではなく、若手音楽家の育成と国際共同制作という本事業の目的を達成するために、プロジェクトの核となるリーダーの音楽家を指名。同人物のリーダーシップにより行われる諸活動のマネジメント及び企画制作を請け負うことのできる相手方との随意契約となった。契約金額についてはそれらの業務をカバーする経費項目となっている。

委員：了解した。

キ 「「Visual Documentary Project」共催契約」

委員：アジアセンターが共催事業の相手を見つける方法は。

基金：本件場合は基金から声を掛けている。アジアセンターの活動が認知され始めてからは、先方からアプローチを受けることも多くなっている。

委員：採用プロセスの透明性は確保できているか。

委員：助成事業については勿論であるが、主催・共催事業の場合は、成果をもって外部の評価を得ていく面がある。

委員：評価基準は集客数などのアウトプット指標か。

基金：集客数、報道件数等のアウトプットに加え、アウトカムの評価も重要。東南アジアに関する知識が増えた、もっと知りたくなった、新たな共同制作に繋がった等、数字には容易には表れ難い観点がある。

委員：ドキュメンタリー映画は採算が合わないので、単純に集客数だけで評価することは厳しいだろう。

ク 「日本語教材『まるごと 日本のことばと文化(中級1 B 1)』試用版の制作業務委託」

基金：当該教材開発事業においては、入門、初級と企画競争を繰り返す度に、説明会参加者、応募者の数が漸減。日本語学習教材においてはレベルの上昇に比例してマーケットが縮小するため、既に中級レベルまで来た現在では、既刊の制作・販売を受注してきた業者に代わり後から参入するメリットが見込めないことが一者応募の原因。なお、今回作成した中級1から中級2への段階では、特段の問題が無い限り直前の既刊の受注業者を第1候補とすることを企画競争時に公示している。落札率が高くなった理由は、予定価格を精緻に積み上げたこと、企画競争の公示段階で目安の価格を明示したことが考えられる。

委員：全ての級を包括する教材開発計画に基づいて、一括して調達することは難しいのか。業者は級の違いによる損も得も合わせて受注するということだ。

基金：単年度の予算執行であることや、コンテンツ開発のための人員計画を長期スパンで立てるのが難しいといった事情もあり、複数年度にまたがる計画を立て一括調達を行い、次々と発注・納品の順調な流れを作っていくことは難しい。

委員：そのような事情は外部からは見え難いので、一者応募が続いている状態について誤解を受けないように留意すべし。

委員：級が上がるほど採算が取れなくなる構造では、今後、随意契約に切り替えたとしても受注先が見つからない事態に陥る危険があるので、何らかの方策を練るべきであろう。

(3) その他

ア 予定価格の事後公表の実態について(報告)

他法人の公表状況に関する調査結果では、「事後の契約において予定価格を類推される恐れがある」として、予定価格の事後公表を一律に実施していないことが

判明。基金としては、これまで事後公表してきたものを止めることには、相応の理由が必要であると考え。

イ 国際交流基金が被派遣者に付保する海外旅行者傷害保険における
治療・救援用保険料の設定額について（報告）

基金役職員や派遣専門家が海外旅行を行う際に基金が海外旅行者傷害保険を付保する在外共済会事業と補償内容の一環性を保つため、“日本語パートナーズ”事業における保険の調達契約においても保険料を同一基準に設定した。

以上

平成 26 年度第 3 回契約監視委員会 抽出案件一覧

No.	契約名称及び内容	契約の相手方	契約方法	契約金額
1	情報セキュリティポリシー改定に係る支援業務委託契約	株式会社富士通マーケティング	一般競争	745,200 円
2	平成 26 年度高校生「ふれあいの場」訪問事業にかかる旅行手配業務委託契約	株式会社日本旅行	一般競争	5,472,447 円
3	「KAKEHASHI プロジェクト」クリエイター交流（短期招へい/アート分野、アニメ分野）に係る国際航空券手配及び国内接遇業務委託契約	トップツアー株式会社	一般競争	4,963,431 円
4	国際交流基金ライブラリーの図書館システム用ハードウェア等賃貸借並びに保守・運用支援契約	株式会社リコー	一般競争	7,750,000 円
5	「山下洋輔 with LOTUS POSITION チェコ、スロバキア公演」公演団契約	有限会社ジャムライス	随意契約	5,519,960 円
6	Asian Youth Jazz Orchestra 公演に係る業務委託契約	有限会社プラネットアーツ	随意契約	4,909,200 円
7	「Visual Documentary Project」共催契約	国立大学法人京都大学	随意契約	2,952,000 円
8	日本語教材『まるごと 日本のことばと文化(中級 1 B 1)』試用版の制作業務委託	株式会社三修社	企画競争	11,718,000 円